

一般向け 今川図書館だより

いまがわーんど

2020年 2月号

今月のテーマ

「光」





今月の特集「光」



2月は「光の春」。咲き始めた白梅や紅梅は、春の訪れを知らせてくれます。

私の中の光、人生を紡ぐ光、未来への希望の光。きらりと輝く光を感じながら、早春の読書を楽しみましょう。



『あなたの眼鏡はここが間違っている』

人生にもビジネスにも効く眼鏡の見つけ方教えます』

藤裕美 / 著 2016年 講談社 535ト

あなたは眼鏡をかけていますか。あるいは、これから眼鏡を選ぼうとしていますか。

「老眼ですね」と言われると、ショックを受ける人が多いようですが、だれしも人生の半分は老眼です。どうせ眼鏡をかけるなら、素敵な眼鏡ライフを送りたいはず。著者の言葉を借りると、「眼鏡が人の気持ちも健康も変えてしまう」とか。眼鏡を変えれば人生が変わる、というのは決して大げさな表現ではありません。

かける眼鏡ひとつで、相手に与える印象に差が出るそうです。多くの著名人の眼鏡を選んできた、著者の考える眼鏡選びで、あなたも自分の個性をアピールしてみませんか。



『美しい海の浮遊生物図鑑』

若林香織 / 著 2017年 文一総合出版 468ワ

空気が澄むこの季節、街を飾るイルミネーションはとともきれいだ。しかし、どんなに華やかに演出しても、人工の光は、自然の生き物たちが放つ光の神秘的な美しさにはかなわないだろう。海の中、特に深海は発光生物の宝庫。そのどれもが美しく光り、奇妙で愛らしい。

本書は、浮遊生物の説明と、種類ごとの生態を写真とともに掲載する図鑑である。ミリ単位のプランクトンたちが、進化の過程の中で、今、私たち人間と同じ時代に生きていると思うと感慨深い。そして、自然が産み出す生き物たちの生態には驚くばかりである。

クラゲを始め、エビやカニ、魚の幼生（稚魚）など、すべてのプランクトンに癒しを求める人に、ぜひ、ご覧いただきたい。



『光の犬』

松家仁之 / 著 2017年 新潮社 328マ

北の町に結びついた、ある家族。助産婦だった祖母、父と母、おば、姉、友人たち。人生は、それぞれ背負った消失点に吸い込まれるように失われていく。それでも記憶をさかのぼれば、風景や匂い、手触りや音と共に、動き始める気配、命の炎の強くゆらめく瞬間があった。冷えた空気を吸い込み、雪を踏みしめて、歩く。

時と人びとの間をするすると行きつ戻りつ、たしかに生きた彼らを見守り、映し出す光。あるいは彼らの放った光の粒は、読者の内側を温めながらゆっくりと通り抜け、辺りを照らす。

雑誌『新潮』に連載された長編小説。深い感動とともに、読みごたえのある一冊である。



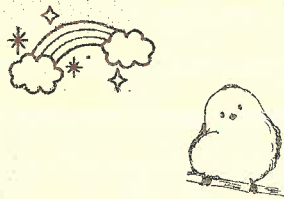
『青の本 -空の蒼 水の碧-』

ネイチャー・プロ編集室 / 編 2009年 PHP 研究所 748ネ

空を彩る虹やオーロラ。時の移ろいによってさまざまな変化を見せる空・海・山。それらすべては、地球に降りそそぐ太陽の光によってもたらされる。

さまざまな命を生み育む地球は、青い星とも呼ばれるように、蒼い空、青い海、碧い山と、多くの「青」であふれている。

本書は、「青」をテーマに、美しい地球の風景と美しい言葉の写真集である。忙しい日常の合間に、心安らく青い光を見出せるかもしれない。



『ヨーロッパの古城と宮殿』

戦乱・悲劇・繁栄の記憶を伝える 76 城 』

藤井信行 / 著 2012年 新人物往来社 230フ

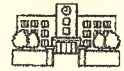
古城は知っています。新しい生命が誕生し、家族皆が喜びにあふれたことを。クリスタルのシャンデリアのまばゆい光のもと、絢爛豪華な舞踏会がくりひろげられたことを。数々の監禁・拷問・処刑が繰り返され、今でもゴーストの目撃談が流れることを。

時の権力者たちが、富と力を象徴し、文化・芸術面でもその先進性を誇示するために作られた、ヨーロッパの古城と宮殿。孤高に、そして美しくそびえ立つその佇まいには、繁栄の歴史の光と影が刻まれているのです。

映画や舞台等にも数多く登場している名城の美しい写真を見ると、名作の映像シーンが蘇ることでしょう。



YA におすすめ!



中高生のみなさんにおすすめの本を紹介します。

『ひかり生まれるところ』

まはら三桃 / 著 2016年 小学館 YA913マ

神社といえば、初詣や例大祭、心眼成就の神頼みと、他力本願な印象であるが、近頃は、御朱印集めのブームや改元にまつわる皇室の行事などを通し、神社への関心が高まっている。

これは、三雲神社の神職として働く奥山希美の物語。中学時代、いじめが原因で不登校になった希美がなぜ神職を選んだのか、自分の心の奥にふたをして隠していることはなんなのか。神職について5年めで、七五三の昇殿祈禱を任されたことから、希美は中学時代のいじめに再び向き合うことになる。

「光はね、闇の中で生まれるのです。」自分の心の弱さや穢れ(けがれ)について吐露した希美に、神社の宮司が語りかける言葉がやさしい。神社や神職の仕事の描写、静謐な空気の流れを柔軟な心のひだをもつ若い世代に感じてほしい。



☆「YA コーナー みんなの掲示板」☆

2月のテーマ (1月に引き続き)

もしも、魔法がつかえたなら

どんなことをしてみたいですか。

楽しいこと、愉快なことを教えてください。





今川図書館に新しく入った本の中から、おすすめを紹介します。

『山手線圏内蔵めぐり散歩ガイド』

清田予紀 / 著 2019年 玄光社 526キ

火災が頻繁に起きた江戸は、かつての蔵の街でした。時代を超えて東京に残る蔵は、今や貴重な歴史的文化遺産。しかし、老朽化や大規模な再開発で、急速に姿を消しています。

本書は、自称「蔵見ニスト」の著者が、都心に残る蔵を写真とともに紹介する「蔵めぐり散歩」のガイドブック。蔵の歴史や蔵の見方、蔵にまつわる落語まで、蔵の魅力が余すところなく記載されています。

近年、蔵の魅力に気づき、リノベーションして住宅やカフェなどに活用されることも多く、一般の人も訪ねやすくなりました。あなたも蔵をめぐる「蔵見ニスト」になって、都心を散策するのはいかがでしょうか。

☆グループ読書会☆
いせひでこさんの世界を楽しむ



日時：2月17日（月） 午前10時～12時

場所：多目的室

申込方法：当日直接会場にお越しください。



『ルリユールおじさん』『雲のてんらん会』など絵本も多く手がける、画家いせひでこさんについて語り合ひましょう。お気に入りの本があればお持ちください。



地域の緑化推進を、本のチカラで強力にサポート。
今川図書館がおすすめする緑化関連資料をご紹介します。

『コケリウム コケでつくるはじめてのテラリウム』

陶武利 / 監修 2018年 笠倉出版社 627カ

世界には約2万5千種類、日本には2千種類以上のコケ植物が自生しているそうです。コケは花を咲かせない孢子植物で、簡素なからだの構造をしている、最も原始的な植物群です。川沿いの岩や木の樹皮、庭の土や道端などに棲み分けしながら生きています。

この本では、グリーンインテリアとして、「コケ」を好みのボトルやガラスケース等を用いて育てたり、飾って楽しむためのアイデアを紹介しています。コケ図鑑も参考に、自分だけの小さな森を作り、癒されてみませんか。



◇展示「冬にかがやく」◇

木枯らしが吹き、落ち葉の舞い散る冬枯れの季節に、輝き始める冬の植物たち。土のなかで力を蓄えている種子にも思いを巡らせながら、寒い季節に凛と咲く、花たちの美しさを愛でましょう。

場所：1階 入口横のコーナー





2月 今川図書館カレンダー



日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
	休館日			おはなし会		
9	10	11	12	13	14	15
	おはなし会	あかちゃん おはなし会		おはなし会		
16	17	18	19	20	21	22
	グループ 読書会 おはなし会			休館日		
23	24	25	26	27	28	29
	おはなし会			おはなし会	あかちゃん おはなし会	
開館時間 月～土 9時～21時 の日（日曜・祝日）は9時～17時 休館日 第1月曜日・第3木曜日						

おはなし会については、児童向け図書館だよりをご覧ください。

杉並区立今川図書館

杉並区今川4-12-10 TEL 03-3394-0431